

「2019年度決算」テレフォンカンファレンス

主な質疑応答

1. 航空エンジン事業について、従来1か月遅れで認識していた売上収益を、遅れなく同月で認識することにより、13か月分の売上を計上したとのことだが、スペアパーツはこれを除いても増加しているのか？
 - ・ 従来1か月遅れであった売上の追加計上額は290億円程度。この数字を除いても、スペアパーツの売上は前期比、また想定よりも増加している。

2. IATAの予想では、航空旅客需要の回復には相当の時間を要するとされているが、それに伴い、スペアパーツの売上も同様に下がるのか。
 - ・ それなりの影響が出ると想定せざるをえない。元に戻るまで一定程度時間がかかるかもしれないが、IHIが参画しているエンジンプログラムは優位性が高いので、回復局面では、早く回復してくるのではないかと考えている。

3. 北米の大型プロセスプラント案件について、追加損失を考える必要はあるか？
 - ・ 10 トレインすべての据付が完了しており、試運転に入っている。新たに大きなコストが発生する可能性はほとんどないと想定している。

4. 下振れを出した国内向けのボイラ案件の現況は？
 - ・ 下振れが発生した複数のボイラ案件については、既に試運転に入っており、2Q までには引き渡しできる見通しである。

5. 研究開発や設備投資に関する2020年度の見通しは？
 - ・ 中期経営計画「グループ経営方針 2019」の3か年で、設備投資・研究開発費・投融資をあわせて、4,200億円程度を予定していた。年間にすると1,400億円ほどの規模になるが、2020年度は計画を見直し、その3分の1程度を凍結することとしている。

6. アフターコロナにおける事業ポートフォリオのあり方をどのように考えているか？
 - ・ 航空エンジン事業や車両過給機事業の回復は、現時点で明確には見通せないが、資源・エネルギー・環境、社会基盤・海洋、および車両過給機事業を除く産業システム・汎用機械の各領域においては、受注を数年分確保しており、短期的には大きく変わらない。むしろ、今まで航空エンジン事業が他の事業を支えてきた形から、他の事業が同事業の落ち込みを支えなおす構図に若干変わってくる。
 - ・ アフターコロナにおける新しい事業のありかたについては、現中期経営計画見直しの議論をこれから進める中で、将来の事業ポートフォリオを検討したい。

7. 鶴ヶ島工場の稼働について、現状の見通しは？

- ・ 鶴ヶ島工場については、瑞穂工場の不適切事案を踏まえ、民間向け航空エンジン事業の整備体制を再構築している。鶴ヶ島は当初稼働を急いで進めていたが、まずはトレーニングをしっかりと行い、準備を進めていく方針である。
- ・ さらに、新型コロナウイルス感染の影響を考慮する必要がある、具体的な時期については未定である。

以上